

【増刊号】
静岡県議会議員
県政報告

つかもと大だい

2013 September

発行所:
〒425-0062
静岡県焼津市中根新田1157
TEL054-624-1555
発行人:
塚本 大



Tsukamoto Dai

【3】焼津産サクラエビの振興について

【質問要旨】

サクラエビは駿河湾を代表する食材として、観光を始め、多方面で利用される素材であることから、地域では焼津産サクラエビのPRと消費拡大を図る動きも出てきている。

県としても、こうした地域の動きを後押しして、駿河湾のサクラエビを盛り上げていく必要があると考える。

そこで、県では、焼津産サクラエビの振興をどのように進めて行くのか伺う。

【経済産業部長答弁】

県としても、既に、焼津産サクラエビをぜひおかしレクシオンに認証し、ブランド化を促進しているところであり、さらに今後、新商品の開発に対する技術支援を始め、東京・秋葉原のアンテナコーナーやふじのくに農芸品フェアなどの場を通じて県内外への販路開拓を後押ししてまいります。

地域の機運が高まっているこの機会を捉え、漁業者を始めとする関係者と連携しながら、焼津産サクラエビの一層の振興に取り組みてまいります。

地域で活動ができなくなった場合は県が責任を持って管理していくのか。

【4】リバーフレンドシップによる河川管理について

【注釈】

「リバーフレンドシップ制度」とは
地域住民の自主的な河川美化活動を支援し、河川を地域の共有財産として保全する意識を啓発することを目的に、平成15年度に制度化された。



【質問要旨】

リバーフレンドシップによる河川管理については、各地域による任意のボランティア活動であるが、今後、人手の確保が困難であることを理由に、清掃や除草等の活動が出来ない団体や地域が出てくる可能性がある。

その際、河川管理者として県は、どの程度、河川の美化に努めていくつもりか。現在、地域や団体がやっているのと同程度の管理ができるのか。県の対応を伺う。

【交通基盤部長答弁】

近年、地域によっては、高齢化などの社会環境の変化への対応が課題となっております。

今後は、意見交換会を各土木事務所で開催し、各団体が抱える課題の抽出を行った上で、活動をサポートするための改善策を検討してまいります。

県といたしましては、自主的、主体的な活動が継続、発展できるように、引き続き支援に努めてまいります。

【再質問要旨】

地域の総会などで意見を聞いていると、リバーフレンドとしての活動が年々難しくなってきたように感じる。

地域で活動ができなくなった場合は県が責任を持って管理していくのか。

【交通基盤部長答弁】

高齢化により、地域で活動ができなくなった場合は、治水安全度が確保できない箇所などを優先的に、県と地域とで役割分担をしながら適正に管理してまいります。

【5】混住化が進む水田地帯での基盤整備の推進について

国や県と比較して、技術面や財政面で限界がある市町が担う

末端施設の整備の遅れが懸念されている。

そこで、基幹的水利施設の整備に併せ、末端施設についても計画的に整備していく必要があると考えるが、県の取り組みを伺う。

【交通基盤部長答弁】

水田周りの用排水路の多くが、今後、耐用年数を迎えることから、市町が必要な対策を計画的・効率的に行えるよう、技術的・財政的支援を充実・強化していく必要があると見ます。

このため県では、市町が来年度から行う施設の劣化状況等の調査や施設整備に対して、国の補助制度を活用し、支援の充実を図ることとしております。

今後は、国や市町との連携を図りながら、上流から下流まで広域に及ぶ農業水利施設の適切な更新と保全に取り組み、混住化が進む農村地域の水田農業を地域の財産として次世代に継承してまいります。

【6】障害のある方への地域生活支援の取り組みについて

【質問要旨】

県は、国の制度や支援策を実施するだけでなく、一人ひとりの障害特性に応じたきめ細かな支援策を講じていく必要があると考える。

また、障害のある方の特性を活かした就職を県として支援することが、地域生活での基盤づくりや、生きがいづくりにつながると考える。

県は、様々な障害のある方が安心して地域で生活していくために、どのような考えのもとで、具体的に、どのような県独自の施策を行っているのか、当局の考えを伺う。

【健康福祉部長答弁】

本県独自の取り組みとしては、地域に数多くある高齢者の介護施設



静岡県議会議員
つかもと大だい
事務所のご案内

〒425-0062 焼津市中根新田1157
TEL 054-624-1555 FAX 054-624-1333
E-mail tsukamoto-dai@almond.ocn.ne.jp
http://tsukamoto-dai.com

【教育長答弁】

これまで地域に有為な人材を多く輩出してきまされた両校の伝統を引き継ぎ、魅力ある人材の育成を目指してまいります。

普通科には、人文・社会類型と自然科学類型に加え、英語の学習に重点を置く国際コミュニケーション類型を設置し、福祉科では、介護福祉士等の資格取得を目指し、専門教育を充実させ、福祉のスペシャリストとして地域福祉に貢献する人材を育成してまいります。さらに、普通科、福祉科、両学科間の教育内容の連携を図ってまいります。

施設につきましては、入浴実習棟の新築や介護実習室の設置など、福祉科の教育に必要な機能を整備するとともに、校舎や体育館の内装・外装の大規模な改修やトイレを全面改装するほか、校舎内の内壁に県産材を活用するなど、新しくスタートする高校にふさわしい教育環境を整備いたします。

【質問要旨】

来々4月に、大井川高校と吉田高校とを統合して、大井川高校の施設を活用して静岡県立清流館高等学校が開校する。

清流館高校が、どのような特色を持った学校づくりを目指しているのか、また新しい学校の施設設備の概要について、伺う。さらに、吉田高校の校舎、敷地